

演 題	外出、外泊に繋げる第一歩
副 題	家族懇談会を通して認知症の人への支援

フリガナ	イリョウホウジンギンモンカイ コウシュウケア・ホーム
施設名	医療法人銀門会 甲州ケア・ホーム
フリガナ	カイゴフクシシ ドバシ アユミ
発表者(職名・氏名)	介護福祉士 土橋 あゆみ
フリガナ	
共同研究者	

【はじめに・目的】

当施設は、31名の入所者が認知症専門棟を利用している。その約9割が長期利用をしている。在宅強化型施設として、まずは、利用者と家族の関係をより密な関係に築くことも一つの支援と考えている。しかし、家族との外出や自宅への外泊機会がほとんどない現状である。平成27年より家族懇談会(以下、懇談会)を開催し、家族への支援・介助指導等の活動を推進し、少しでも多くの利用者が家族との外出機会が設けることができるように取り組みを行ってきた。

そこで今回は、第1回から第6回まで開催してきたこれまでの懇談会の内容や方法について家族へアンケート調査を行い外出、外泊への不安を軽減する事ができたか振り返りを行った結果を以下に報告する。

【対象者】

認知症専門棟利用者家族

【懇談会内容】

- 第1回：介護場面で困っていることや不安の表出
- 第2回：認知症の症状の理解と対応について講義
- 第3回：車イス操作の講義と実践(コメダ珈琲店へ利用者と家族、職員で外出)
- 第4回：車への移乗方法の講義と実践(家族の車でいちご狩りへ外出)
- 第5回：食事(介助方法や食形態)についての講義
- 第6回：認知症サポーター養成講座

【調査方法】

認知症専門棟入所者家族20名を対象にアンケート・聞き取り調査を実施

【アンケート集計】

20名中13名が回答(回答率65%)

設問1. 各家族懇談会の参加状況

参加7名・不参加6名

第1回：1名 第2回：1名 第3回：1名

第4回：3名 第5回：2名 第6回：3名

設問2. 懇談会に参加し外出への不安を軽減できたか

○不安を軽減できた 2名

○不安を軽減できなかった 2名

○どちらともいえない 3名

設問3. 外出、外泊の不安を軽減できた理由

- ・4回目のいちご狩りに参加し職員の介助指導により外出したことで自信を持つことができた。
- ・1、2回目に参加し講義を聞いたことで認知症の理解をすることで不安を軽減する事ができた。

設問4. 外出、外泊するにあたり不安なことは何か

- ・自宅環境
- ・排泄介助
- ・移乗方法
- ・入所者の状況(BPSD等)

【アンケート結果】

一部の家族には、外出への不安軽減に繋がっているが、半数以上は不安を軽減できなかった。

【考察】

懇談会への参加家族の半数以上が、「不安を軽減できなかった」「どちらともいえない」と回答した理由は、これまでの懇談会が、一般的な認知症の学習に留まっていたことにあると考えられる。まず、第一歩として一般的な認知症の理解が必要と考え支援を行ったが、外出や外泊を行う上では、より個別的な介助方法の理解が必要であると考えられる。実際、アンケート結果では、不安の原因に自宅環境や入所者の状況等が挙げられた。これは、一般化できない利用者の個別的認知症の特徴や対応方法を知りたいという現れと言える。

また、不安の軽減に繋がったかという設問に「どちらともいえない」という回答も挙げられた。これは、懇談会が外出や外泊へ繋げるためのイベントであるという趣旨が家族には伝わりきれていないことが考えられる。懇談会は、家族の外出への不安を少しでも軽減し、自信に繋げるための会であることを家族に理解してもらうことも外出や外泊へ繋げる重要なことであると考えられる。

【まとめ】

今回、懇談会を振り返ることにより、家族が外出や外泊するための不安に個別性があること。また、懇談会の趣旨を十分に理解してもらう働きかけが大切であることが分かった。今後は、個別的な学習会や懇談会を継続して実施し、一人でも多くの入所者が家族と外出する機会が増え住み慣れた自宅や思い出の場所などに行く一歩を踏み出すきっかけとなるように支援していきたい。